

# 義太夫

## 節目の一年

社団法人義太夫協会会長

景山正隆

義太夫協会会報  
第63号

平成8年8月1日  
社団法人 義太夫協会発行  
〒104 東京都中央区銀座  
6-18-2 新橋演舞場B2  
TEL (3541)5471

私が、義太夫協会の三代目会長に就任して、早くも一年が経過しました。この一年、月例の女流義太夫演奏会、NHK「芸能花舞台」出演、一日体験教室、義太夫教室など、一応協会の歩みは順調に進んできたといってもよいのではないかと思います。しかし、それぞれの動向を仔細に見ますと、例えば、義太夫教室受講者数が前年度をはじめここ数年に比べてやや減少しているなど、必ずしも安閑としてはいられない一面もあります。

特に、平成八年度から、これまで文化庁から助成を受けていた普及活動のための国庫補助金が打ち切られることになったことは、思

いもかけない大打撃でした。幸い文化庁と芸術文化振興会のご配慮によって、芸術文化振興基金によって何とか切り抜けることができるようになりましたが、将来に一抹の不安を残したことは否めません。

このように、義太夫ばかりでなく、伝統芸能を取り巻く社会の状況がかなり厳しいものであることは、会報の新年号にも書いた通りです。私たちは、気持を引き締めるとともに、何とかしてその状況を打開してゆかなければなりません。

今年、故鶴澤三生師の十三回忌に当たります。私も、本牧亭時代の三生さんの魅力的

第63号は、13回忌を迎える故鶴澤三生師を偲んで、三生師特集としました。芸はもとよりその人柄ゆえ、今なお多くの方々語りつがれる三生師。この特集で師の知られざる一面が見えてくることとしましょう。関連記事は2頁より7頁まで。お写真は、竹本駒之助師よりお借り致しました。ご期待下さい。

な演奏ぶりが懐かしく脳裏に甦りますが、それにつけても、近年の世代の交代の著しいことを思わずにはいられません。幸い、若い後継者の方たちの活躍が、一段と目立つようになつたことは嬉しい限りです(鶴澤津賀寿さんの平成七年度仙広賞受賞など)。また、本年は、竹本朝重さんの紫綬褒章受賞をはじめ、竹本越道さん、鶴澤友路さん、四代目西川古柳さんと三人打ち揃っての伝統文化ポララ特賞受賞、竹本駒之助さんのモービル音楽賞(邦楽部門)受賞と、まことに喜ばしいことが重なりました。

昨年は協会が社団法人を認可されて二十五年という記念すべき年でもあり、この一年は、義太夫協会にとって、大きな節目の年であったのではないかと思います。さらに一層会員一同力を合わせて、協会の発展を期したいと思います。

# 故鶴澤三生師を偲ぶ

——三生師の十三回忌に因んで——



【鶴澤三生年譜】

本名 上田 寿々

明治36年5月1日 東京新富町に生れる

44年 初代鶴澤三生に入門

大正3年 六代目竹本津賀太夫に入門

11年 二代目鶴澤三生を襲名

その後鶴澤綱造、寛治らに師事

昭和45年 社団法人義太夫協合理事

49年 社団法人義太夫協会参与

52年 芸団協芸能功労賞

55年 重要無形文化財「義太夫節」総合指定保持者

同「義太夫節保存会」理事

58年 勲五等瑞宝章

59年9月29日 肺炎のため逝去

三生師に由縁の深い方々に、編集部二人でインタビューにうかがいました。

○まず、相三味線を弾いていただき、後にご子息のお嫁さんにもなられた、竹本駒之助師匠から。(四月七日お稽古場にて)

駒之助 三生の十三回忌、覚えて下さってありがたい。

越孝 お師匠さんはずっと三生お師匠さんにお三味線をひいていただいていたわけですけど、きっかけはなんだったんですか？

駒之助 あかね、昔は見台開きっていうのがあってね、見台買ったからおひろめするのね、越孝 見台買ったんびにやるんですか？

駒之助 いやあ、田舎のことだから、なんか理由つけちゃ、やるの。

津賀寿 淡路の頃ですね。

駒之助 そう、三生は越駒さんを弾いてたんだけど、私が見台開きで「鳴門」をやるので弾きに来てくれたの。十六くらい頃。

越孝 それがきっかけですか。

駒之助 そうね。それで十八の時に東京にも、というので本牧亭に来たの。やるたびに綱造先生のところと一緒に稽古にきましたよ。

越孝 三生お師匠さんは、文楽の綱造師匠にずっとお稽古していただいていたんだ

すね。

津賀寿 剛腕綱造：

駒之助 そう、私が結婚してからはあちこちに一緒に稽古に行ってくれてね。

津賀寿 ああ、松之輔師匠とか綱大夫師匠とか越路師匠のところも？

越孝 お師匠さんも一緒に行って下さるんですか？

駒之助 そう、よく勉強する人だったから。死ぬまで稽古に行っていましたよ。

越孝 そうですねえ、新大久保のお稽古場にいつうかがっても何かしら炬燵にむかって書きものしてらっしゃいましたよね。一人でいらしたのにテレビ見てらっしゃることなかったですね。

駒之助 テレビは見なかったねえ。本書くの上手できれいな本、たくさんありますよ。新作なんかあると私の分まで書いてくれるの、私は自分で本書いたことなかったもの。

越孝 三生お師匠さんというのと、赤い口紅をこう、チョコッとつけてね、目がクリクリとして、こういっちゃあ失礼ですけど、とってもかわいらしいね。

駒之助 赤い口紅好きだったわね、それはきれいな人で：：若い時の写真見てごらん、すごいきれいなよ。私が行った頃は、ほんとに忙しかったからねえ、歩くのが早くて早くについてくの大変だった。朝自分の稽古に行くと、三時にはご連中さんがみえるからね。三味線弾きが少なかったわけじゃないけど、ひ

っぱりだこで、いろんな人弾いてて：：弥周さん、重之助さん、小津賀さん：：：勉強してない太夫だとよくいやがってね。古いお客さんがいったじゃない、舞台でばちを床にガンガンたいて、まじい、まじい、てやったとか：：それは太夫本位のね、いい三味線でしたよ、こないだ亡くなった綾之助さんなんかもよく言ってたけど、ここは苦しくて出ないというようなところはちゃんと下でうけてくれて、それはやりよかったって。そのかわり、合の手なんかきたらウワッとさうらってっちゃうの、もうお客さん「三生さん三生さん」で大変な騒ぎになっちゃうのよ。

越孝 ああ、そうでしたねえ、綱造師匠じこみの：：：  
駒之助 そうそう、それで芸が大きかったね、舞台芸だわね。

越孝 三生お師匠さんはいくつ位からお三味線始められたんですか？

駒之助 叔母さんが三生で、七つの時に養女になったのね、その前は田島って言って、七人兄弟の女一人、七福神の弁天さんなのよ。

養女になって上田寿々になったの。夜になるつまっくらでなんやらに顔ベロツとなめられるような家で、こわくてこわくて何でもいから三味線弾きまくってないといられなかった。先の猿之助師匠やなんかに稽古はしてもらってたらしいけど名前はなかったのね、それで、十三のときに叔母さんが亡くなって津賀太夫の弟子になって津賀寿になったわけ。

先の津賀太夫が、叔母さんの三生のお兄さんだったそうよ。

越孝 回向院にお墓のある、  
駒之助 で、二十一で三生を継いだのね。

駒之助 お酒が好きでね、夜になると五合は飲んでたわね、なんかあると一升ぐらい、津賀寿 毎日ですか？

駒之助 そう、毎日。よく肝臓こわさなかったねえ、長火鉢の前たてひざして、きせるコンコンなんてやって、きゅうずに日本酒入れて少しずつ火にかけながら飲むんだけど、酔って時々先の三生のお位牌に向かって「やい上田、出てみやがれ」なんて啖呵きっちゃうの、私は初めはこわかったよ。酔っては階段からガラガラ、て落ちちゃったり、けがしちゃうのよ。腕も何回か折ってる。骨折るとあれは痛いらしいねえ。一回ね、どこか折った時に、パパ（ご主人上田勝久氏）が救急車よぶの嫌いなよ、それで、あるご連中さんの家のとなりが葬儀屋さんだったの。「霊柩車でもいいから早く病院連れてって！」て：

駒之助 けっこう気にしないとこのある人だったのね、パパがおなかにいる時、七ヵ月まで気がつかなくて、銭湯で「何ヵ月ですか？」っていわれて気がついたっていうのよ。

越孝 ええーっ！つわりはなかったんですかね、おなかもだいぶ大きいでしょうにね。

駒之助 できないっていわれてたから夢にも思わなかったのねえ。



(?十年前のお二人です。)

越孝 子どもさんはお好きでいらっしやいました？  
駒之助 好きだったみたいね。

駒之助 人が良すぎるほど良くって、傷痕軍人なんかよくいたじゃないの、

津賀寿 あれ、だましも多いんですね。  
駒之助 そうよ、金持ちなんだからって言うても、かわいそうだってみーんな千円ずつ入れてっちゃうの。それから、うちの前を背広の人が毎朝子ども抱いて通ってたの、そうしたら「あの人は奥さんがいないんじゃないか、きつとこまってるんだからうちで子ども預かるう、聞いてごらん」て言うの、そんな事聞けないじゃないのねえ。そんな人だった。

越孝 ああ、それで今思いましたけど、昔本牧亭の夜席に出る時、昼席で前田勝之助さんてとっても上手な講談の方がやってらしたね、でもお客さんが二、三人しかいなくて、それ三生お師匠さんが見て「あんなにうまいのにこれしかお客さんがいなくてあの人かわ

いそうだねえ、何かしてあげましようよ」  
うちの師匠に相談なさってね、ご祝儀あげた  
んですよ、そしたらその方大感激してね、ご  
祝儀の何倍もの立派なおすし、差入れして下  
さったんですよ。

○三生師匠はたくさんの素人さんにもお稽古  
をなさいました。そこで次に、三生師匠にお  
稽古をしていただき、現在は駒之助師匠のも  
とでお稽古を続けておられる、上原操さん  
にお話をうかがいました。上原さんは今年九十  
二歳、二カ月前から体調をくずされて入  
院中で、四月二十四日、駒之助師匠に病院ま  
で連れて行っていただきました。

駒之助 おばちゃん、どうお？

津賀寿 ずいぶん元気そうになったね。

上原 ああ、忙しいのにみんなありがとう。

越孝 はじめにお師匠さんの所へいらした  
のは？

上原 湯島の妻恋の頃ね、

越孝 もうお師匠さん、お嫁にいらしてま  
した？

駒之助 お兄ちゃんは今もう生まれてたから昭  
和三十七、八年よね。

上原 そうかしらね。その頃はね、大阪の  
お師匠さん(春駒師)が月のうち十日間くらい

来てくれてね、そうすると三生お師匠さんが

弾いてくれるの。

越孝 義太夫を習われたのはその時が初め  
てですか？

上原 いやあ、私はね、初めは文案にいた

才造さんてお師匠さんに習ったの。浅草にお  
稽古場があつてね

津賀寿 三生お師匠さんのお稽古、恐かった？

上原 いや、全然恐くなかった。私はね、  
その前の才綱さんが恐くって恐くってたまら  
なかつたからね。

駒之助 才造さんのお弟子さんの才綱さんね。  
女のお師匠さんよ。おばちゃん、審査会で「花

菱屋」で横綱になったんだっけ？

上原 ううん、あれはね、一等になったの、  
横綱はね、「宗五郎」。

越孝 すごいですね。

上原 いや、お勤めしながらだからね、だ  
めよ。もう私は義太夫やめることにしたの。

駒之助 そんなこと決めちゃだめよ。

越孝 そうですよ。

上原 そう？もう田舎に言っちゃった：：  
一人だから病院が他の病院世話するとかね、  
言ってくれるの。でも病院はいやなの、うち  
にいたいよ。早くお稽古場行って、みんなの  
顔見たいのよ。

津賀寿 退院してお稽古場来れば：：  
上原 お稽古場の階段がね：：とても：：  
あんなに好きな義太夫なのにねえ：：  
駒之助 私が月一ぺんくらいずつ出てくるわ  
よ。「皆で来るから。」

― 帰り道 ―

駒之助 田舎から姉さんのお孫さんが出てく  
るんだけど、おばちゃんは田舎へは絶対行き  
たくないしね、かわいそうねえ、私をもっと  
家にいれればひきとってあげたいと思うけど。

津賀寿 なんか三生お師匠さんみたいですね。  
越孝 時代は繰り返すわねえ。  
注 上原さんはお元気に稽古に復帰しておられます。

野 澤 錦 輝

三生師匠には一年半といふ誠に短い期間  
でございましたが、私にとりましては十  
年にも二十年にも匹敵致します素晴らし  
い時でございました。真面目で如何にも  
三味線弾きとして几帳面なそして大きく  
細やかで、今思い起こしましても有難く  
心より感謝致して居ります。お若い時の  
先生はお酒がお好きとか愉快な方の様で  
したが、私には固くて凄く勉強家の方の  
様に感じられました。優しくてきびしい  
お稽古にうかがってつらい日は一日もご  
ざいませんでした。今の私にはあの頃が  
一番幸せな、そして勉強出来、何時も先  
生と、又、語って下さいました駒龍師に  
感謝して居ります。愛別離苦と云ふ言葉  
がございますが、今は先生も亡くなり私  
も本牧亭閉鎖と共に難病になりました。時  
時昔を思い起こし、一人楽しかったあの  
頃の事を考え、微笑して居ります。三生  
師匠にめぐり会い、お稽古して頂きました  
のも誠に不思議な御縁がありましたと心  
より嬉しく存じます。先生有難うござい  
ました。厚く御礼申します。

番外

四月二十八日、上原さんが数十年にわたって幹事をつとめてきた大日本素義会が開かれました。上原さんは残念ながら今回は欠席でしたが、二十番以上のプログラムを盛会のうちに終えることができました。その楽屋にて。

津賀寿 先日は原稿ありがとうございました。錦輝 へたな文章で恥ずかしいわ。月に一つは必ず新しい曲覚えてたわね、ねえお師匠さん。

駒龍 え？なに？ああ、三生お師匠さん？錦輝 覚えるよね、あげざらにお師匠さんに来ていただいてね、語ってもらおうよ。駒龍 ああ、よく行ったわねえ。

錦輝 これ書くのよしたんだけごさあ……津賀寿 なんですか、そういうの聞きたい。錦輝 そうお？あのね、炬燵の中からおせんべが出てくんのよ。お稽古終わるとね、お菓子がなぜか炬燵の中から出てきて、それぞれそうになって……お茶のんで……ねえ、駒龍 え？そうよ、お菓子が出てくるのよね、炬燵の中に入れてあるのよ。

錦輝 一回だけお酒誘われたことあったわね、ねえお師匠さん、駒龍 なに？お酒？よく飲んだのよね、誘われたこと？あったかしら、忘れちゃったわ。

錦輝 そうお？いつもね、五時になると飲みたいもんだから早く帰れ早く帰れ、っていうのね、一回だけ誘って下さったの、こわいから帰っちゃったけど……

○奥村さんは、三生師匠最後の、三味線をお稽古したお弟子さんです。

奥村 由 伎 子

「うちへ来たら人の三味線の批判をしてはだめよ。それから、誰の三味線を弾きたいなんて言わないこと。腕が上がれば向こうから頼みにくるからね。」

最初に三生お師匠さんから言われたことばです。

稽古は、まずお師匠さんが弾くのを聞き、二回目からお師匠さんの手元を見ながら弾くというやり方でした。昔は本場に三回目は一人で弾かされたそうで、帰り道に必死になって思い出し、翌日さらってもらってどうにか覚えられたとおっしゃっていましたが、私の場合はもちろん何度も繰返し一緒に弾いていただきました。こういう稽古になれていなかったのと、ほとんど何も知らなかったのと、お師匠さんの手元を見る方に神経が行ってしまい、曲がなかなか頭に入らず、しまいにはお師匠さんの方が根負けして、先に朱を貸して下さるようになりました。

稽古は週二回。「いつもこの辺までにしておこうか」（ほっとする私）といったんはとまるのですが、必ず「もう少し行こうか」（今ならウッソーというところ？）と先へ進みますので結構大変でした。

テープは必ずとっていましたが、一度テープレコーダーの調子が悪く録音できなかったことがありました。つい手元にあったお師匠さんが弾いているテープを聞き、その手を弾いてしまいましたら、「その手は教えていないわよ。それは綱造先生しか弾かない手だから」と言われ、冷汗をかいたことがあります。

お師匠さんは綱造さんを一番尊敬していらしたようです。「綱造先生」という時には特別思いがこもっているように聞こえました。「誰に稽古してもらっても必ず得るところはある」とも仰っていました。四代目清六さんからも「稽古に来たらみてあげる」と言われたそうですが、行かずじまいになってしまったそうです。

「教えた通り弾いてくれたらこんな嬉しいことはない」というお師匠さんでしたが、こちらに力がなく、手数を覚えるのが精一杯で終わってしまったのが残念でなりません。

○五月七日 久しぶりに駒登久師匠にお目に 趣孝 お久しぶりです。 腰を痛めちゃったのでねえ。やっぱり胴をの

津賀寿 お元氣そうですね、つやつやしてい

らっしゃる。 三生お師匠さんの話ねえ、いいお話できれ ばいいんですけどねえ、だいぶ長いんですよ、



妻恋町の頃ねえ、駒龍さんとね、二人で。

越孝 昭和三十年代ですね。

駒登久 ああ、もう年げんは全然忘れちゃったわねえ。

越孝 お師匠さんはずっと東京でいらっしやいますよ。

駒登久 ええ、駒清、ていうお師匠さんにね、田原町にいらしたんですよ、十四、五の時からかしらね、それで戦争で一時、やめてね、もうやれないと思って結婚して子どもができて：でも、終戦後また寄席ができた、ていうんで、また始めたんですよ。寄席へは十五、六から出てたんですけどね。それからしばらくして駒龍さんを弾くようになったんで、あ

とは越駒さんなんかを弾いてたんですけどね。

越孝 そうですか。三生お師匠さんの印象はいかがでした？

駒登久 そうですねえ、しじゅうツレ弾きなんかしてたんで：行った頃は三生さんが四十代くらいですかね、

越孝 ああ、どんなものを：

駒登久 そうねえ、ああ、「阿古屋」なんかもやりましたよ。

三生お師匠さんは、どなたでしたっけ、文楽の方

の方にね、お稽古に毎朝出てっちゃんんでね、帰ってくるまでうちの用事して待ってたりしましたよ。勝ちちゃん(前出 上田勝久氏)がまだ小さくてね、

越孝 三生お師匠さんはきびしかったですか？

駒登久 ええ、そうね、とても勉強家でした

たからね、駒龍さんと二人、よく言われましたよ。ずっと二人でね、長年ー古いんです。

駒登久 人がとつてもね、良すぎる程良かったからね、それでついいけないこと、よけいなこと言っちゃったりしてね：よく舞台の帰りにご連中さんに連れられてお酒をね、飲みに行っただんですよ。私も飲めないけどよく一緒に歩いてそばにいたんですけどね、酔うと目の前にいるご連中さんの悪口言っちゃ

って：

越孝 あらあら、お師匠さんそばでお困りですね。

駒登久 為広さん、ていうご連中さんがいらしたんですよ。

越孝 ああ、為広薫さん、てね、津賀寿 よくお話しにですまね。

駒登久 そう？あの方がまたとってもいい方ですねえ、言われてもへらへらして：

越孝 遠慮なくおっしゃれる方だったんですね。

駒登久 そうですね。そういうご連中さん、大勢いらしたし：

越孝 そういう人間性がね、ストレート、ていうか、気持ち良かったんでしようね。

駒登久 そうね、腕も好きだったでしょうしね、大変なご最員で：先に亡くなったんですよ、たしか。

越孝 お師匠さんははじめ豊竹でいらしたんですよ。

駒登久 私？そう。太夫じゃないですけどね、私の師匠が駒太夫の弟子で、ずっと豊竹だったんですよ。わざとしてたんでしようね。私は、三生お師匠さんとこへ行って、鶴澤を

いただいたんですよ。預かり弟子でね、本牧亭で披露も賑やかにやっていたたんですよ。

越孝 へえ、その時は何をやりになったんですか？

駒登久 さあ：「野崎」かなんかだったか、最後にね、大勢出ていたでいてね、かけあいで、駒龍さんも出てくれてね。

駒登久 三生さんは、はりものなんかね、お上手でよくなさってましたよ。

越孝 ああ、あらいはり、へえ、新大久保でもきちんといろいろなさってましたものね。

津賀寿 新大久保のお稽古場、ていうのは桑野へ越してからなんですか？

越孝 そう、三生お師匠さん一人でいらして、週末になると帰られたのよ。それでね、小田急線乗るでしょ、すわろうと思っ

て、待つんですって、それで一番前に並んでんの

にいつもすわれないんですって。

駒登久 新大久保に行く前、一二年だったかしらね、はこやさんの小林さんね、あそこの二階を借りてお稽古場にして、ご連中さん

もいらして、私たちも皆ね、行ってたんですよ。新大久保の最後の方は私はあまり行か

なかったの、その頃は錦輝さんがよくいらして

たんじやないかしらね。私も五、六人ご連中

さんがあったんですよ。最初銀座の釣道具屋

さん

の二階で稽古してただけで、それができなくなつて榎原まで出稽古に行つてたんです、十年近く行つたかな、新派に綾之助さんと出たりね、かげですけどね、うちも私が働かないと：働き手が私だけだったもんだから、働いて子ども育てて：：：まあ、私のことばかり言つて、三生さんのお話ねえ、越孝 いいえ、同じですよ、働いて：越孝 苦労してます。その頃は東橋亭、という寄席がね、

越孝 義太夫専門の寄席ですね。

駒登久 ええ。いい寄席で、でもお客さん入らなくてやめちゃつたのね。あづま会、て会をずっとやって、師匠の駒清も出てましたよ。その前は寿老会館で。

越孝 素人さんの会も盛んだったそうですね。

駒登久 ええ、始終お素人さんの会ありましたね、ずいぶんほうぼう行きましたよ、駒込とか：：：寿老は古いんですよ。

越孝 三生会、ていうのがあつたそうですね。お出になられましたか？

駒登久 ええ、出ましたよ。自分のご連中さんを弾いてね、いえ、三生さんのご連中さんは弾きませんよ。今は素人さんの会ないですもんねえ。昔はね、みやこ新聞、てのがあつてね、そこに、「今日はどこで何」てね、素人さんの会のことのがのつたんですよ。

越孝 当時は猿幸、三生、と並び称されてましたが、

駒登久 ええ、それしか有名な方いらっしや

らなかつたから：：：あとは私たちちみたいなのしか：：：

越孝 とんでもない。

駒登久 私は三生さんだけだったんですよ。

師匠の気持ち悪くさせるといけないと思つて猿幸さんにツレ弾き頼まれても絶対に行かな

らなかつたから：：：あとは私たちちみたいなのしか：：：

越孝 とんでもない。

駒登久 私は三生さんだけだったんですよ。

師匠の気持ち悪くさせるといけないと思つて猿幸さんにツレ弾き頼まれても絶対に行かな

らなかつたから：：：あとは私たちちみたいなのしか：：：

越孝 とんでもない。

駒登久 私は三生さんだけだったんですよ。

師匠の気持ち悪くさせるといけないと思つて猿幸さんにツレ弾き頼まれても絶対に行かな

らなかつたから：：：あとは私たちちみたいなのしか：：：

越孝 とんでもない。

駒登久 私は三生さんだけだったんですよ。

師匠の気持ち悪くさせるといけないと思つて猿幸さんにツレ弾き頼まれても絶対に行かな

らなかつたから：：：あとは私たちちみたいなのしか：：：

越孝 とんでもない。

駒登久 私は三生さんだけだったんですよ。

師匠の気持ち悪くさせるといけないと思つて猿幸さんにツレ弾き頼まれても絶対に行かな

らなかつたから：：：あとは私たちちみたいなのしか：：：

越孝 とんでもない。

駒登久 私は三生さんだけだったんですよ。

師匠の気持ち悪くさせるといけないと思つて猿幸さんにツレ弾き頼まれても絶対に行かな

らなかつたから：：：あとは私たちちみたいなのしか：：：

越孝 とんでもない。

駒登久 私は三生さんだけだったんですよ。

師匠の気持ち悪くさせるといけないと思つて猿幸さんにツレ弾き頼まれても絶対に行かな

らなかつたから：：：あとは私たちちみたいなのしか：：：

越孝 とんでもない。

駒登久 私は三生さんだけだったんですよ。

師匠の気持ち悪くさせるといけないと思つて猿幸さんにツレ弾き頼まれても絶対に行かな

らなかつたから：：：あとは私たちちみたいなのしか：：：

○三生師との出会いは、義太夫教室誕生まで遡るといふ竹本弥乃太夫師に、トリを飾っていたいただきます。

竹本弥乃太夫

私と三生師の出会いには義太夫教室誕生が始まる。昭和二十三年、義太夫教室の第一期開講生徒は五人、今とは昔日の観がある。したがってマンツウマンの稽古も出来た。実技の先生は当時の女流No.1と謳われた鶴沢三生師(実技科目は太十)と豊沢猿幸師(実技科目は野崎である。私の案内も三生師に習った教室の後輩だから、三生師と教室の思い出を書いたら尽きることを知らない。プロになつての初舞台は師の糸で朝顔の浜松を語る。朱の手ほどきも受けた。当時は三味線の朱というものは普及していないし、知らない方が多かつたのである。私がのちに義太夫教室の教材として役立っているのは師のおかげである。

〔閑話休題〕後にプロになつた隅斗太夫という人が故郷に義太夫で錦を飾ることになつて私が前座で三生師と同行することになつた。昭和二十五年の夏、勿論当時はSLである。新宿から列車に揺られ、大月で乗り換えて富士吉田に向かい、谷村と言うところで下車する。彦山権現の毛谷村から連想して、その地名は今も忘れない。その日は町を挙げての大歓迎で、会場は古くからの大きな料亭の二階座敷である。大盛況で幕を閉じ宴会でお開きになつた。さて問題はそれからである。その晩は三生さんと、土地の旅館に泊まることになつた。関係者が、東京から男女二人行きますからお願ひします、と旅館に電話をして指定された旅館に二人で行く、番頭さんに案内されて二階の部屋に通つた。襖を明けてびっくりした。なんと、赤い塗りの行灯に、枕屏風、一つ布団に枕が二つ、権八小紫の部屋みたいになまめかしい。泡食したのは私ばかりでない。三生さんも仰天！「ネエ番頭さん私たちは夫婦ぢやないの、親子みたいなものヨ」番頭あわてて、部屋を別々に用意した。因に三生さんは私の母の一つ下だから、私とは二十三も違ふのである。そんなことどうだつていい。翌日は、三生さん乗せて、河口湖でボートを浮かべた。

：：：ああこんなことがあつたなア、と今思い出してみた鶴沢三生師のひとこま。

師のご冥福を心からお祈りします。

# 一日体験シリーズ終る

## 演舞場スペース・アルファ

「教師のための義太夫講習会」で、語ってみませんか、弾いてみませんかと呼びかけて語り八年、三味線九年目を迎えました。桃栗三年柿八年。種を蒔いたそれなりの成果は十分に上っていますし、太夫・三味線という実演家もわずかずつですが育っております。しかし平成八年度より、普及活動に対しての助成金が打ち切られるという厳しい局面を迎え、体験シリーズ、それに続く義太夫教室の存続があらゆるまされております。

「義太夫(語り)の一日体験教室

平成8年4月7日

「絵本太功記 尼ヶ崎の段」

講師―竹本 素八

参加者45名(男12名・女33名)

アンケート解答43名(男11名・女31名)

(無記入1)

\*義太夫を語るの初めは 42名 経験あり  
1名「前回の一日体験教室にて」

\*他の邦楽の経験がある8名 なし33名  
無回答2

\*年代 10代―0名 20代―6名 30代―12名  
40代―10名 50代以上―15名

以下、設問順に答えて頂きました。

- ①義太夫を語るの ②他の邦楽の経験が
- ③一日体験に参加の動機 ④年代 ⑤性別
- ⑥義太夫に対して持っていたイメージ

- ⑦体験して、そのイメージがどう変わったか
- ⑧感想

①初 ②ある「長唄、箏」 ③一度語ってみたいと願っていたので ④50 ⑤女 ⑥人間の感情のきびを唄い上げる、すばらしい芸術と感していました。 ⑦イイエ、変わりました。 ⑧邪心ないかわいらしくも芸一筋のすばらしい師匠にお会い出来て、こんなうれし

いことはございません。お教室のおかげこの進め方については、いくつか考えた方がいいなと思う点がありました。

①初 ②なし ③語り方を一寸知りたかった。 ④20 ⑤女 ⑥聞いていて心地よく、馴染んでくる感じがするもの。 ⑦難しい ⑧だんだん声が出るようになったところまで終ってしまっただけという感じでした。これからは歌舞伎や文楽を見るうえで、とてもいい参考になったと思います。

①初 ②なし ③子育ても一段らくした時でもあり、今年には花粉症もかかったのでやっと参加出来ました。 ④40 ⑤女 ⑥無記入 ⑦何回も繰り返して息継ぎが少しわかった程度です。体が熱くなってアセをかきました。声を出すのは気持ちいいです。

①初 ②なし ③文楽をより深く知りたい。 ④60 ⑤男 ⑥素人では「到底語れない」と ⑦難しいことが解りました。でも、今以上親しみが深まると思っています。 ⑧先生のお年に似合わぬ力強さに感動を受けました。

①初 ②なし ③一度聞いたことがあり、心のかたすみに残っていたため ④20 ⑤女 ⑥自分とは、とおい世界、かわりのない世界というイメージでした。 ⑦非常に心を打つものがあると思えました。深い世界だと感じます。 ⑧時間一杯やってくださった師匠と、70年以上やってらっしゃるといってお話に感動いたしました。すばらしいと思います。

①初 ②なし ③一度語ってみたかった。大きな声を出せるのも魅力。 ④40 ⑤女 ⑥最初に聞いたのは、文楽の「女殺油地獄」この時は思ったより、言葉がわかるし、三味線が腹にひびいて気持が良かった。(それまでは、全く理解出来ないにちがいないと思っていた。) ⑦無記入 ⑧最後の方には声も出る様になっておもしろかったが、腹から声が出ているとは思わない。腹式呼吸による発声



を教えて欲しかった。義太夫はやはり唄なのだと感じた。

①初 ②なし ③おもしろそうだったから。  
④30 ⑤無記入 ⑥全くイメージがわかなかつた。 ⑦無記入 ⑧めんめんとながれてきた文化を感じた。

①初 ②なし ③文楽好きでして、最近若手の人形遣、太夫等と顔見知りになったこともあり、是非声を出してみたかったため ④50 ⑤男 ⑥国立劇場で文楽素浄瑠璃を聞いておりますので、大変難しいものと思っております。⑦一言に言って楽しかった。意外に声が出そうと勝手に思い込んでいます。⑧素八太夫の人柄が自ずと反映し、暖かではりのある教室でした。大変楽しい想いをさせて頂いて感謝にたえません。

①初 ②あり「謡」 ③文楽大好き。義太夫をうたってみたくい ④30 ⑤女 ⑥・男性がたい声でするもの・伝統的に歌い方が確立しているもの・文楽の伴奏 ⑦・歌い手次第で歌い方がわかる、感情移入がすごい・きちんとした歌い方が本に書いてある訳ではなく、とても習うのが難しい・男女とも同じように歌える ⑧とても難しかったが、とても楽しかった。感情を一杯入れるというのは、とても楽しくて、一度始めたらくせになりそう。義太夫のCDがあったら、買って練習してみたくなりました。

「三味線の一日体験教室」

平成8年4月14日  
講師 鶴澤 駒治

参加者 合計40名

(男9名・女31名)  
アンケート回答38名(男8名・女30名)

\*三味線を弾くのは 初めて26名 経験あり12名

\*三味線以外の楽器の経験が ある14名 なし12名 無回答2名

\*年代 10代10名 20代11名 30代9名  
40代6名 50代以上10名 無回答2名

以下、設問順に答えて頂きました。

①三味線を弾くのは ②他の邦楽の経験 ③三味線以外の楽器の経験 ④年代 ⑤性別 ⑥太棹のイメージ ⑦感想

①初 ②なし ③フルート・パーカッション  
④20 ⑤女 ⑥日本人のなきどころ ⑦絃のものに触るのも始めてだったので、あと左ききなので、かなりとまどったのですが、できないなりにとても興味深い。これからもやってみたくいのですが、いかにせん学生ゆえお金と時間がない。でも、本当にやってみたくい。おねえさんが、なかなか遠慮がなくてよかったです。でも、あとせめて1時間長ければと思ひます。

①あり(細棹) ②無記入 ④60 ⑤女  
⑥舞台で聞く太棹の迫力も、第一歩はここからなんです。 ⑦未知のものへ本気で向かった二時間、充実しました。身近に聞く機会の多い関東圏の方がうらやましいです。

①初 ②なし ③ピアノ ④20 ⑤女 ⑥純  
⑦初めてなので来た時や、プリントの譜をみたときは「大変な所に来てしまったな」と緊張しましたが、最後には何となくそれらしい音をたどることが出来て嬉しかったです。自分でやってみると、先生の姿勢や音がいかにか美しいかがよくわかりました。皆が大きな音を出すので、先生はマイクを使った方が良いのでは。とても良い企画だと思います。

①あり(津軽) ②なし ③なし ④30 ⑤男 ⑥太夫の声には、やはり腹にしみるこの音です。 ⑦譜が難しいというか、ちょっと混乱させられた。三味線の重さが意外とゆーか津軽に比べて軽かった。

①初 ②なし ③ピアノ ④20 ⑤女 ⑥今まで思っていたものより、古風な感じがしました。 ⑦音符には慣れていたので、間のとりにかたなどなじみがなく、指づかいが私には難しかったです。もう少しゆっくりか、一人に一つ三味線があれば良かったのですが、でもとても楽しく弾くことが出来ました。どうもありがとうございます。ちゃんと弾けるのはいつの日かと思ひます。

①あり(一年間習った) ②無記入 ③なし  
④30 ⑤男 ⑥無記入 ⑦一の糸があればほど強いとは思わなかった。

①なし ②なし ③なし ④20 ⑤女 ⑥無記入 ⑦三味線の中でも太棹に興味があったので以前から楽しみにしていました。でも、全然できませんでした。実際に三味線にさわる前に、例えば口三味線で皆に拍子覚えさせ、歌わしてから弾いてみる…というふうにしてはどうでしょうか。一度三味線を持つと先生の話を聞かずに弾き続ける人がいて、先生の説明が聞けなかったのです。でも良い経験でした。ありがとうございます。

①なし ②無記入 ③ギター ④60 ⑤男  
⑥良い ⑦日本の間と洋の間の違いを感じた。フレーズを耳で先に覚えた方が良いのでは。

和・洋の間の違いを感じたという参加者より体験記をお寄せ頂きましたので、左記にご紹介致します。

### 義太夫三味線教室

## 体験記

父は義太夫が好きで子供の頃からよく聞かされてきました。しかしその頃はなかなか馴染めませんでした。が近頃になって少し興味がわいて来たようです。

私は昔からジャズが好きで唄ったりギターを弾いたりしていましたが三味線も面白そうに思えたので、参加してみました。日曜日とて寝坊して会場へ着いた時は景山会長の挨拶も終わった頃でした。そと受付を済ませて後ろの方へ入りました。会場はほとんど一杯で後の方が二三空いているだけ、がらがらに空いていると想像していたのは大きな間違いでした。

三味線を見た事は何度もありますが触ったのは初めて、バチの重さにびっくり、暫くすると小指の痛さに又ビックリ、よくあの小さな女性の手で重くて痛いバチを持ち、重い太棹を長時間抱えていられるものだと感心しました。中々あの重いバチを手首を使って糸に当て音を出すのは難しいものです。

又、左手もギターの様にフレットがないのでポジションを押さえるのが難しい。ベース(コントラバス)等もフレットがないので練習の時はネックにポジションをマーキングする等して練習します。昔母や妹が長唄をやっていた時、棹にポジションを書いた長い紙を貼っていたのを見た事があります。あんなのを貼ったら覚え安いかと思いました。

今はコピーもあるし、すぐ剥せる糊もあるので借り物の三味線でもちょっと貼っておくと便利だと思えます。頂いた譜面は見にくく景山会長が説明をして下さっても良く解らない。洋楽の様に三線紙に進行に従ってポジションを記入し、記号も「いろは…」は今時はやらないので例えば「に」は三二(三線

の一番上)「ヨ」は一四、三の糸の開放弦「い」は三〇と書けば一瞬に読みとれるのではないのでしょうか。

又、休止符は「よい」とか「は」とか「合の手」をそのままに書いておけばその通り間が取れるのではないかと思います。

譜面もさる事ながら先ずは曲を良く聞く事だと思えます。練習は短い曲です。一つのフレーズを何度か聞かせて先ず曲を覚えさせて弾き方を教える方が良いと思います。脳は文字記号よりメロディーの方がインプットしやすいし、譜面は後で独学する場合のメモリーです。

やれもしないでくどくど云ってしまいましたが、早い話が簡単に解り易い方が良いと思います。

それから先生が一生懸命教えても声が小さいので他の音にかき消されてちっとも聞けないのも残念です。せめてPA装置を使って拡声した方が良いと思います。会場には必ず装備されているはずですが。

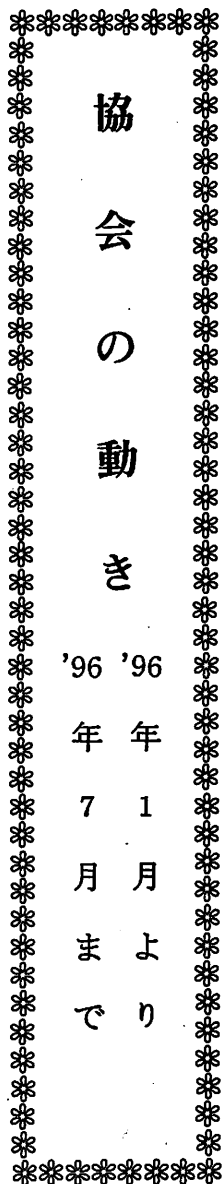
色々申し上げましたが私自身は失格である事を自覚しています。何故かと云うと正座をして十分位で痛くなり三十分我慢しているとジンジンと針のむしろになってしまいいくつでは先ずダメだと思えました。正に座折挫折です。

こんなに足がしびれては再びやれるかどうかかなり疑問です。

八・四・十四 T・K

協会の動き

'96年 1月より  
'96年 7月まで



「平成八年度」

- 1月8日 普及部会 於文明堂
- 8日 芸術文化振興基金平成八年度助成金交付要望書提出
- 1月18日 正会員・役員新春挨拶交換会 於国立演芸場
- 18日 女流義太夫演奏会「初春公演」(芸術文化振興基金助成) 於国立演芸場
- 1月26日 東京女性財団平成八年度助成金申請書提出 於国立演芸場
- 1月31日 第522回三越名人会出演「寿式三番叟」演奏 於三越劇場
- 2月22日 第15回伝承者研修発表会(義太夫節保存会主催、義太夫協会後援、文化庁・東京都助成) 於国立演芸場
- 2月24日 義太夫教室OB演奏会1第48期生卒業発表会(義太夫教室OB会主催、義太夫協会後援) 全25高座 於東京証券会館ホール
- 2月28日 常務理事会 於布善俱樂部  
28日 理事会 於布善俱樂部
- 3月2日 第1回駒之助の会(義太夫協会後援) 於紀尾井小ホール
- 3月9日 '96都民芸術フェスティバル第26回邦楽演奏会参加 於新宿朝日生命ホール
- 3月11日 義太夫教室第48期上級コース修了式 於演舞場スペースアルファ
- 3月21日 公演企画委員会 於サロン・ド・サンク
- 3月22日 女流義太夫演奏会(芸術文化振興基金助成) 鶴澤寿々方芸団協助成新人奨励賞受賞記念。開演前舞台にて表彰式を行なった。 於国立演芸場
- 3月29日 平成7年度東京都文化財保存事業費補助金実績報告書提出 於国立演芸場
- 29日 平成7年度文化財保存事業費国庫補助金実績報告書提出 於国立演芸場
- 3月30日 平成7年度芸術文化振興基金助成事業(女流義太夫演奏会) 実績報告書提出 於国立演芸場
- 4月7日 義太夫(語り)の一日体験教室 講師1竹本素八 於演舞場スペースアルファ
- 4月8日 公演部会 於文明堂
- 4月10日 平成7年度民間芸術等振興費補助金実績報告書提出 於文明堂
- 4月14日 三味線の一日体験教室 講師1鶴澤駒治 於演舞場スペースアルファ
- 4月15日 東京女性財団平成八年度助成の審査結果通知(対象外)(4/1付) 於演舞場スペースアルファ
- 4月19日 芸術文化振興基金平成7年度助成金の額の確定通知(3/29付) 於国立演芸場
- 4月20日 女流義太夫演奏会「中堅演奏家を中心に」 於国立演芸場
- 4月30日 平成7年度東京都文化財保存事業費補助金の額の確定通知(3/31付) 於国立演芸場
- 30日 平成7年度文化財保存事業費国庫補助金の額の確定通知(3/31付) 於文明堂
- 5月13日 普及部会 於文明堂
- 5月17日 平成8年度芸術文化振興基金助成金交付内定通知(5/16付) 於文明堂
- 5月17日 常務理事会 於布善俱樂部
- 5月22日 公演部会 於国立演芸場
- 22日 女流義太夫演奏会「妹背山婦女庭訓」特集 於国立演芸場
- 5月23日 平成8年度文化財保存事業費国庫補助金の内定通知(5/21付) 於国立演芸場

- 5月25日 平成7年度民間芸術等振興費補助金の額の確定通知(4/30付)
- 5月27日 芸術祭「文化庁主催公演」説明会  
竹本朝重・竹本駒之助両副会長、竹本綾太夫事務局長出席
- 27日 義太夫教室第49期初級入門コース 開講 35名受講  
於演舞場スペースアルファ
- 5月29日 平成8年度文化財保存事業費国庫補助金交付申請書提出
- 6月2日 公演部会 於お江戸日本橋亭
- 6月2(3) 第2回ひこばえ若手三味線勉強会 (義太夫協会後援)
- 3日 於お江戸日本橋亭
- 6月12日 定例理事会 於文明堂
- 6月17日 芸団協総会 竹本綾太夫事務局長出席 於東京会館
- 6月21日 平成9年度文化財関係国庫補助事業計画書提出
- 6月23日 女流義太夫演奏会 竹本朝路(竹本朝重門下)初舞台 於国立演芸場
- 23日 新人正会員オーディション 於国立第二演芸研修室
- 23日 公演部会 於国立劇場
- 6月26日 義太夫協会通常総会 平成7年度事業報告・収支決算報告、平成8年度事業計画・予算案を審議、原案通り可決した。 於文明堂
- 7月12日 平成8年度芸術文化振興基金助成

- 7月19日 金交付申請書提出  
義太夫教室第49期初級入門コース 開講。 32名卒業 10名皆勤。  
於演舞場スペースアルファ
- 7月20日 女流義太夫演奏会 竹本朝重紫綬褒章受章記念(芸術文化振興基金助成)  
於国立演芸場
- 20日 公演部会 於国立演芸場
- 8月1日 義太夫協会会報第63号発行

心身障害児のための特別公演  
チャリティ(1995.12.22)

大変遅くなりましたが、下記の通り御報告申し上げます。  
募金は、NHK厚生文化事業団を通じて、心身障害児のために活用されております。御協力有難うございました。

[ 報告書 ]

会場募金箱	110,000円
協会扱御寄付	80,000円

( 内 訳 )

竹本弥乃太夫御一門様	50,000円
中島 古平様	10,000円
堀 田鶴子様	10,000円
和田 博様	5,000円
西川 扇蔵様	5,000円

合計 190,000円

\*尚、今回もプログラム印刷一切は、女流義太夫後援会の御寄贈になるものです。

御冥福を心よりお祈り申し上げます。

- 豊澤 和孝師(本名一岡野定男) 正会員 享年99才 平成8年2月23日逝去
- 中村初波奈様(本名一中村はな) 義太夫協会 会参与 享年92才 平成8年2月26日逝去

計 報

平成七年度豊澤仙廣賞

鶴澤津賀寿に決定

10月22日 演芸場で祝う会

河野国声常任相談役の提唱を受けて、豊澤仙廣師(もと義太夫協会副会長・義太夫節保存会会長)の功績を記念して昭和61年に創設された「豊澤仙廣賞」、平成7年度受賞者は鶴澤津賀寿に決定いたしました。副賞は、株式会社十全を通じて毎年河野国声氏より授与されています。若手ながら、演奏会ではしばしばトリを勤めるなど、目覚ましい活躍に対し「第11回豊澤仙廣賞」が贈られました。

【鶴澤津賀寿略歴】

昭和58年 義太夫教室36期受講

59年 竹本駒之助入門

同年 (故)野澤錦糸に師事

61年 鶴澤津賀寿となる。「本牧亭」で初舞台

同年 (故)鶴澤重輝の預かり弟子となる。  
平成3年 芸団協助成新人奨励賞受賞

〈受賞〉

義太夫協会関係者に慶事があいつぎました。慶びの声は次号で、まずはご報告まで。

□紫綬褒章受章

八年度春の褒章で、義太夫協会副会長・竹本朝重が紫綬褒章を受章。5月14日、伝達式が行なわれました。

□平成8年度伝統文化ポラ賞

第16回を迎えた伝統文化ポラ賞の特賞を義太夫協会常務理事・竹本越道、同理事・鶴澤友路がペアで受賞。

また、正会員四代目西川古柳師も、同特賞を受賞。贈呈式は、10月30日東京プリンスホテルの予定です。

□第26回モービル音楽賞

邦楽部門の本賞を、義太夫協会副会長・竹本駒之助が受賞。贈呈式は、11月28日の予定です。

〈会員の便り〉

暑中お見舞い申し上げます。四年ぶりの来日に心が踊りました。短い滞在期間でしたが、6月公演を演芸場で聴かせて頂けたことは、何にも増して幸運でした。研究のため、毎日コンピュターで女流義太夫とは接していますが、やはり直接に目、耳、肌で感じるものとは、印象がずいぶん違います。此の度私の研究の集大成ともいえる学術書が、来年2月に刊行されることになりました。協会をはじめ関係者の皆様には、ひとかたならぬご尽力を頂きました。この著書が、女流義太夫を世界に紹介するお役に立てれば幸いです。来年、再来日し、私の手で協会に寄贈出来たらと思えます。また、お会いできる日まで、皆様お元気にお過ごしください。ありがとうございます。

コールドレック・キミ

〈寄贈〉

きどや楽器店様 太棹三味線 2挺

太棹三味線素材 14冊

五行本 1挺

及川恒雄様 太棹三味線 1挺

ビクター伝統文化振興財団様 芸能レコード目録 3冊

アガリ糸 1冊

鶴澤宏太郎様 女流義太夫後援会様 4000部

仮名手本忠臣蔵プログラム 300部

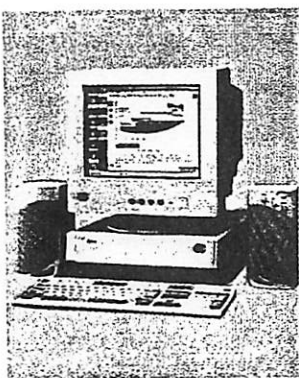
同当日用プログラム 1800枚

女流義太夫ポスター(2色)印刷一式 1000部

96会員名簿印刷一式 1000部

株式会社十全様 マイク、スピーカー装置一式

河野国声様 パーソナルコンピューター一式



Windows'95登載のすぐれもの「インターネットで邦楽を」ホームページ開設近!

河野国声常任相談役の御寄贈によって、6月28日にパソコンが導入されました。「ゲムで終らないようにね」と配達人、果しての運動やいかに!

どうもありがとうございました。